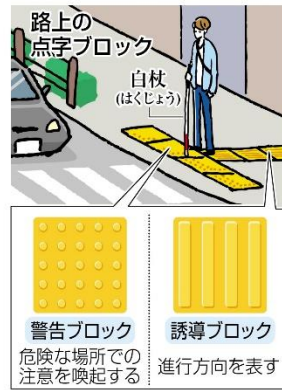


① 視覚障がい者にとって、点字ブロックとは何でしょう。端的に表している言葉を記事の中から抜き出しましょう。

命綱

② 点字ブロックの普及と歴史について、記事をさらに要約してみましょう。

視覚障がい者からヒントを得て、突起があるブロックを路上に敷く方法を開発。70年以降全国に普及した。「誘導ブロック」「警告ブロック」が12年に国際規格に。75カ国以上に導入されている。



点字ブロックが初めて設置された岡山市の交差点近く立つ記念碑＝岡山市

岡山発祥、視覚障害者支え続け 点字ブロック半世紀

75カ国以上に活用広がる

交差点や駅おなじみの点字ブロックが、世界で初めて岡山市内に設置されてから今春で半世紀を超えた。視覚障害者の安全な歩行を支える「希望の眼」として海外にも活用が広がる一方、必要としない人々の意識の低さや、誤った理解による危険な設置などの課題も。関係者は啓発活動を通じ、重要インフラとしての一層の周知を図る。

最初は230枚
点字ブロックが誕生したのは1967年3月18日。岡山市の発明家、故三宅精一さんがブロックを考案し、県立岡山盲学校近くの交差点に300枚が設置された。三宅さんが設立した「安全交通試験研究センター（岡山市）」が、形状は変遷を重ね、2001年に進行方向を表す教授（バリアフリー）として、国内外の設置状況を調査した。突起の高さは、歩道の位置や車道の境目を知らせる手段はなにかと思索。友人の視覚障害者から「靴を履いても足の感触で地面の状態が分かる」と聞いたのをヒントに、突起があるブロックを路上に敷く方法を考案した。規格（JIS）として規定された。アジアや欧州など海外にも拡大。12年には「I.S.」を基に国際規格となった。

三宅さんが設立した「安全交通試験研究センター（岡山市）」が、形状は変遷を重ね、2001年に進行方向を表す教授（バリアフリー）として、国内外の設置状況を調査した。突起の高さは、歩道の位置や車道の境目を知らせる手段はなにかと思索。友人の視覚障害者から「靴を履いても足の感触で地面の状態が分かる」と聞いたのをヒントに、突起があるブロックを路上に敷く方法を考案した。規格（JIS）として規定された。アジアや欧州など海外にも拡大。12年には「I.S.」を基に国際規格となった。

③ 2種類の点字ブロック、それぞれ身の回りにはありますか？探してみましょう。

恥ずかしながら、解答を書いている人はブロックが2種類あることすら知りませんでした。みなさんはどうでしょうか。

(2017年5月5日付夕刊社会面)